

振動刺激が筋緊張に与える影響についての検討

1. 研究の対象

振動刺激が筋緊張に与える影響についての検当院で橈骨遠位端骨折に対して掌側ロッキングプレート固定術を施行された方を対象とする。

2. 研究目的・方法

健常成人男性を対象に全身の振動刺激を与え筋緊張抑制に働き、筋の柔軟性を改善するのかが検討することである。全身振動刺激の周波数 12Hz と 8Hz を与える群とコントロール群にわけて、FFD, SLR, HBD, 足関節背屈可動域, 肩関節外転可動域を評価項目として 3 群間で比較する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢, FFD, SLR, HBD, 足関節背屈可動域, 肩関節外転可動域椎間数 など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都中部総合医療センター 患者相談係

研究責任者：

京都中部総合医療センター リハビリテーション科 恩村 直人

-----以上